

海洋理工学会 平成13年度春季大会

プログラム

5月17日(木)10:00-17:00

10:00-11:40 一般講演1 中田喜三郎(東海大海洋)

- 17a1 HFレーダを用いた広域波浪観測に関する基礎的研究
○児島正一郎、橋本典明、佐藤裕司、吉松みゆき(港湾技研海洋環境)
- 17a2 伊豆海嶺をはさんだT/Pライン上の水位の年変動について
○川崎 清(水研センター中央水研)
- 17a3 定期航路船舶を用いた植物プランクトン顕微鏡画像撮像システムの運用実験
○中野 洋、飯高 弘、土井卓也、斎藤俊幸(産総研) 原島 省(国立環境研)
齊藤幸賢(ドコモセンツウ)
- 17a4 海洋リモートアクセスステーションの研究開発(その3)
○飯高 弘、中野 洋、土井卓也、斎藤俊幸(産総研) 原島 省(国立環境研)
齊藤幸賢(ドコモセンツウ)
- 17a5 無人海洋大気観測艇「かんちゃん」の開発
○千賀康弘(東海大海洋) 植松光夫(東大海洋研) 末森 勝(ヤマハ)
紀本岳夫(紀本電子工業) 小梨昭一郎(アレック電子)

13:30-17:00 シンポジウム

「海洋情報技術(Marine IT)-モバイル技術を応用した海洋データの伝送-」

座長 竹内俱佳(電通大) 荒井修亮(京大院)

- 13:30-13:40 「Marine ITの現状と展望」 荒井修亮(京大院)
- 13:40-14:20 「移動通信及び衛星通信技術」 中嶋信生(電通大)
- 14:20-15:00 「自律式無人潜水機(AUV)のためのMarine IT」 月岡 哲(JAMSTEC)
休憩(10分)
- 15:10-15:50 「海洋音響トモグラフィシステムとMarine IT」 中埜岩男(JAMSTEC)
- 15:50-16:30 「海洋観測ブイとMarine IT」 畑瀬 修(ゼニライトブイ)
- 16:30-17:00 総合質疑応答

17:00-18:00 懇親会(会場未定)

5月18日(金)10:00-16:40

10:00-11:00 一般講演2 座長 飯高 弘(産総研)

- 18a1 浅海域の水中測位システム-亜熱帯海域における海草藻場観測システムへの適用-
○西村清和、山室真澄、岸本清行(産総研海洋) 野崎健、加藤 健、根岸 明、
大谷謙仁(産総研電力エネ)
- 18a2 可搬型SQUIDシステムに関するフィールド実験
○野村康平(明大) 葛西直子、飯高 弘、中野 洋、土井卓也、佐藤宗純(産総研)
藤縄幸雄(防災研) 齊藤幸賢(ドコモセンツウ) 根本俊雄(明大)
- 18a3 風浪の発達課程における2次元方向スペクトルの時間変動
○鈴木直弥、趙 朝方(千葉大 CERE S) 江淵直人(東北大理) 渡部 勲(防災研)
諏訪 純(千葉大工) 杉森康宏(千葉大 CERE S)

11:10-11:40 通常総会

11:40-12:00 業績賞・論文賞表彰

13:00-15:00 一般講演3 座長 鋤崎俊二(日本海洋生物研究所)

- 18p1 伊勢湾における人工合成有機物の分布についてのモデル解析
○中田順子(麻布大学)、中田喜三郎(東海大海洋) 堀口文男(産総研)
- 18p2 伊勢湾貧酸素水塊の解析
○江里口知巳、中田喜三郎(東海大海洋)
- 18p3 中海における貧酸素水塊の解析
○本多健太郎、中田喜三郎(東海大海洋)
- 18p4 底生生態系モデルを用いた浅場造成における構造的最適配置の検討
○畑 恭子(国土環境梶) 鈴木輝明、青山裕晃(愛知県水試)
- 18p5 清水港での基礎生産力の時系列観測
○築地由貴、岩堀 聡、堀内智啓、千賀康弘(東海大海洋)
- 18p6 T I Mモデル開発のための海洋基礎生産の観測-千葉県小湊内湾において
○趙 朝方(千葉大 CERE S, 青島海洋大学) 諏訪 純(千葉大工) 大沢高浩
黒岩大悟、杉森康宏(千葉大 CERE S)

15:20-16:40 一般講演4 座長 千賀康弘(東海大海洋)

- 18p7 フロー型レーザ蛍光顕微鏡による植物プランクトンの連続計測法の開発2
○斎藤俊幸、飯高 弘、中野 洋、土井卓也、佐藤宗純（産総研）藤縄幸雄（防災研）
原島 省（国立環境研）齊藤幸賢（ドコモセンツウ）
- 18p8 顕微鏡撮像のための植物プランクトン濃縮技術に関する基礎実験
○久保田祐輔（明大）土井卓也（産総研）飯高 弘、中野 洋、斎藤俊幸（産総研）
原島 省（国立環境研）齊藤幸賢（ドコモセンツウ）根本俊雄（明大）
- 18p9 顕微鏡撮像のための植物プランクトン濃縮技術の研究（船上実験）
○土井卓也（産総研）久保田祐輔（明大）飯高 弘、中野洋、斎藤俊幸（産総研）
原島 省（国立環境研）齊藤幸賢（ドコモセンツウ）根本俊雄（明大）
- 18p10 ネットプランクトンの船上における現存量測定技術の開発について
○秋葉龍郎、角井嘉美（産総研）